

令和 7 年度 全国学力・学習状況調査（文部科学省）
島根県（公立）の結果概要

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

（１）国・公・私立学校の以下の学年の原則として全児童生徒を対象とする。

ア 小学校調査

小学校第 6 学年、義務教育学校前期課程第 6 学年、特別支援学校小学部第 6 学年

イ 中学校調査

中学校第 3 学年、義務教育学校後期課程第 3 学年、特別支援学校中学部第 3 学年

（２）障がいのある児童生徒については、各学校の判断により、当該児童生徒の障がいの種類や程度に応じて、調査時間の延長、点字・拡大文字・ルビ振り問題の使用、代理解答、別室の設定などの配慮を可能とする。ただし、特別支援学校及び小・中学校等の特別支援学級に在籍している児童生徒のうち、以下の事由がある児童生徒については、原則として、当該事由に係る教科に関する調査の対象としない。

ア 下学年の内容などに代替して指導を受けている場合

イ 知的障がい者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の教科の内容の指導を受けている場合

（３）日本語指導が必要な児童生徒については、各学校の判断により、調査時間の延長、ルビ振り問題の使用などの配慮を可能とする。ただし、例えば、国語、算数・数学及び理科の時間に日本語指導のための取り出し指導を受けているなどの事情がある場合は、当該教科を調査の対象としないことを可能とする。

3 調査実施日・方式・教科等

校種	実施日	方式	教科等
小学校	令和 7 年 4 月 17 日（木）	冊子を用いた 筆記方式	国語・算数・理科
	令和 7 年 4 月 18 日（金）～4 月 30 日（水） のうち、指定された実施日	オンライン方式	児童質問調査
中学校	令和 7 年 4 月 17 日（木）	冊子を用いた 筆記方式	国語・数学
	令和 7 年 4 月 14 日（月）～4 月 17 日（木） のうち、指定された実施日	MEXCBT を用いた オンライン方式	生徒質問調査・理科

4 調査事項

(1) 児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査

(ア) 小学校調査は、国語、算数及び理科とし、中学校調査は、国語、数学及び理科とする。国語、算数・数学及び小学校理科は、冊子を用いた筆記方式（「PBT」= Paper Based Testing）で実施する。中学校理科は、生徒が活用する ICT 端末等を用いた、文部科学省 CBT システム（「MEXCBT」）によるオンライン方式（「CBT」= Computer Based Testing）で実施する。

(イ) 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

(ウ) 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

イ 質問調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査（以下、児童を対象とする場合は「児童質問調査」、生徒を対象とする場合は「生徒質問調査」、児童及び生徒を対象とする場合は「児童生徒質問調査」という。）を、児童生徒の活用する ICT 端末等を用いた CBT（生徒質問調査にあつては、MEXCBT による CBT）で実施する。

(2) 学校質問調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問調査（以下「学校質問調査」という。）をオンラインによる回答方式で実施する。

5 県内公立学校で調査を実施した学校数・児童生徒数

【小学校等】市町村立小学校 182 校、義務教育学校前期課程 2 校及び県立特別支援学校小学部 2 校

小学校調査	実施予定学校数	実施学校数（実施率）	実施児童数
公立学校合計	188	186（99%）	5,234 人

【中学校等】市町村立中学校 88 校、義務教育学校後期課程 2 校及び県立特別支援学校中学部 4 校

中学校調査	実施予定学校数	実施学校数（実施率）	実施生徒数
公立学校合計	94	94（100%）	4,942 人

II 公表について

1 公表の内容

(1) 島根県及び全国の教科に関する調査の結果

(2) 島根県及び全国の質問調査の結果

児童生徒質問調査及び学校質問調査の回答状況

2 公表結果に関する留意事項

本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であること。

中学校理科については、IRT（項目反応理論）方式で実施。学校（自治体）ごとの結果は、IRT スコア（IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500 を基準にした得点）で表示し、個人の結果は5段階の IRT バンドで表示する。

3 その他

島根県教育委員会のホームページ及びしまねの教育情報 Web「EIOS」に公表資料を掲載

III 教科に関する調査の結果

1 結果の概要（島根県と全国の平均正答率との比較）

- ① 小学校理科、中学校国語の平均正答率は全国平均並みであった。
- ② 小学校国語、算数、中学校数学の平均正答率は全国平均を下回った。
- ③ 小学校国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「我が国の言語文化に関する事項」は全国平均並みであったが、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「情報の扱い方に関する事項」は全国平均を下回った。
- ④ 小学校算数では、すべての領域において全国平均を下回った。
- ⑤ 中学校国語ではすべての事項、領域において全国平均並みであった。
- ⑥ 中学校数学では、「数と式」、「図形」、「関数」領域において全国平均を下回ったが、「データの活用」領域では全国平均並みであった。
- ⑦ 小学校理科では、「エネルギー」領域は全国平均を下回ったが、「粒子」、「生命」、「地球」の領域は、全国平均並みであった。
- ⑧ 中学校理科の IRT バンド分布グラフは、全国と比較すると「4」の割合が低く、「2」と「3」の割合が高かった。

2 各教科の平均正答率・IRT スコア

【小学校（国語・算数・理科）】

	平均正答率（％）		
	島根県	全国(公立)	差
国 語	64	66.8	-2.8
算 数	55	58.0	-3.0
理 科	56	57.1	-1.1



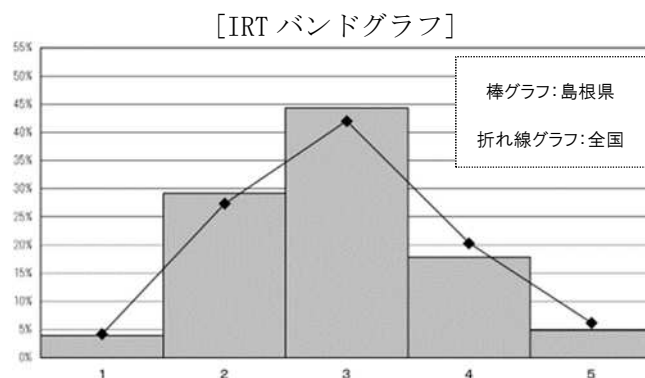
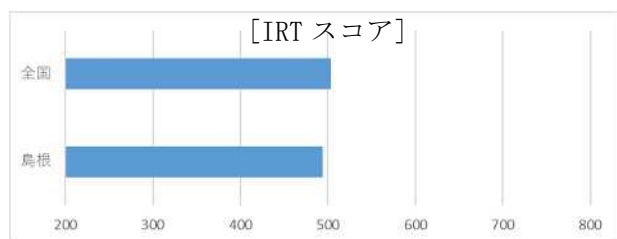
【中学校（国語・数学）】

	平均正答率（％）		
	島根県	全国(公立)	差
国 語	53	54.3	-1.3
数 学	46	48.3	-2.3

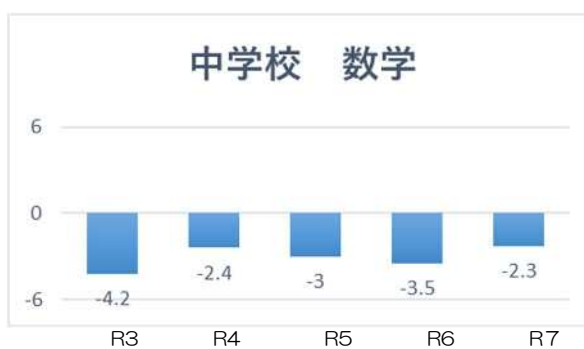
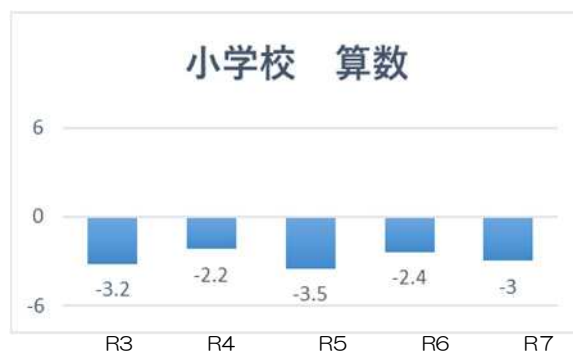
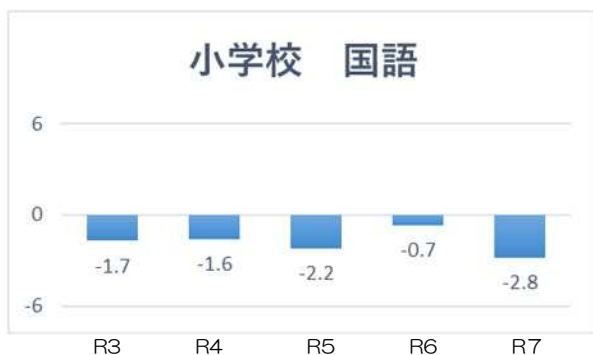


【中学校（理科）】

	IRT スコア		
	島根県	全国(公立)	差
理 科	494	503	-9



【参考】各教科の正答率の全国との差（経年変化）



理科はR 3、R 5、R 6は実施なし

3 各教科の正答数分布グラフ及び分類・区分別集計結果

【小学校 国語】

・：概要 ○：成果 ●：課題

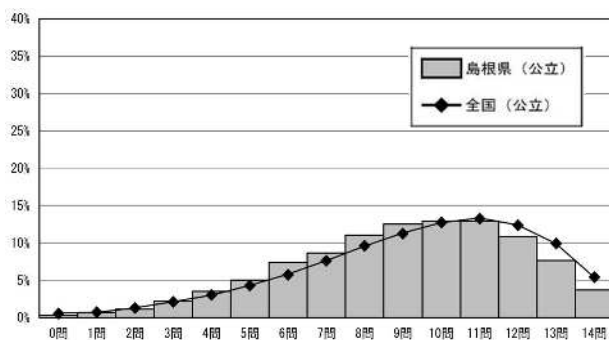
【これまでの課題】

- A 目的や意図に応じて、集めた情報を分類したり、関係付けたりして、伝え合う内容を検討することに課題が見られる。
B 登場人物の相互関係や心情などについて、暗示的な描写を基に捉えることに課題が見られる。

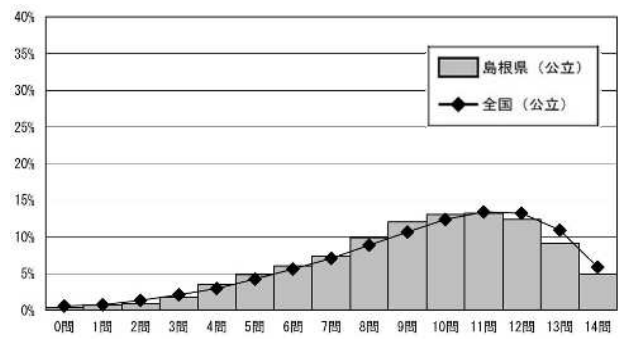
【本調査の状況】

- ・ 県平均正答率は64％であり、全国平均を下回っている。
 - ・ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」は全国平均を下回っている。
 - ・ 「情報の扱い方に関する事項」は昨年度、全国平均並みだったが、今年度は下回っている。
- ① 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができています。
② 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができています。
① 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことに課題が見られる。…A
② 「書くこと」において、内容のまとまりや段落相互の関係に注意して文章構成を考えることに課題が見られる。…A

1 正答数分布グラフ [R7]



【参考】[R6]



2 分類・区分別集計結果 [R7]

学習指導要領 の内容	対象 設問数	平均正答率 (%)			
		島根	全国	差	
言葉の特徴や使い方に 関する事項	2	76.7	76.9	-0.2	—
情報の扱い方に関する 事項	1	59.0	63.1	-4.1	△
我が国の言語文化に関 する事項	1	79.6	81.2	-1.6	—
話すこと・聞くこと	3	63.4	66.3	-2.9	△
書くこと	3	66.2	69.5	-3.3	△
読むこと	4	55.5	57.5	-2.0	△

【参考】[R6]

学習指導要領 の内容	対象 設問数	平均正答率 (%)			
		島根	全国	差	
言葉の特徴や使い方に 関する事項	4	64.0	64.4	-0.4	—
情報の扱い方に関する 事項	1	86.1	86.9	-0.8	—
我が国の言語文化に関 する事項	1	75.3	74.6	0.7	—
話すこと・聞くこと	3	57.3	59.8	-2.5	△
書くこと	2	67.5	68.4	-0.9	—
読むこと	3	69.0	70.7	-1.7	—

○：県が全国を2ポイント以上、上回るもの ー：県と全国の差が2ポイント未満のもの △：県が全国を2ポイント以上、下回るもの（以下同じ）

3 成果の見られる問題2問

【問題番号】 ②四「言葉の特徴や使い方に 関する事項」 ① [島根県値 82.1%] [全国値 81.6%] 【問題内容】【ちらし】の下線部アの漢字を使っ て書き表す（このみ）
【問題番号】 ③一「我が国の言語文化に関する事項」 ② [島根県値 79.6%] [全国値 81.2%] 【問題内容】【資料1】を読んで思い出した【木村 さんの経験】を通して、木村さんが 気付いたこととして適切なものを選 択する

課題のある問題2問

【問題番号】 ①二「情報の扱い方に関する事項」 ① [島根県値 59.0%] [全国値 63.1%] 【問題内容】【話合いの記録】の書き表し方を説 明したものとして適切なものを選 択する
【問題番号】 ②一「書くこと」 ② [島根県値 61.1%] [全国値 65.5%] 【問題内容】【ちらし】の文章の構成の工夫を説 明したものとして適切なものを選 択する

【小学校 算数】

・：概要 ○：成果 ●：課題

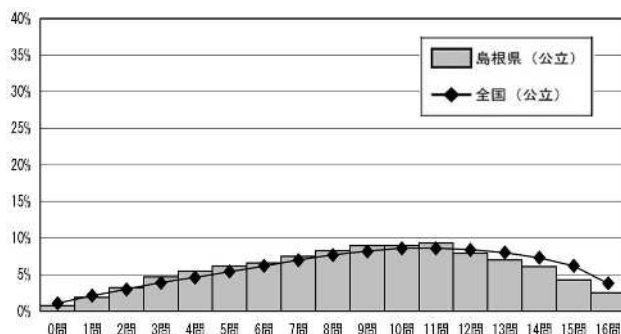
【これまでの課題】

- A 図形の特徴や構成要素を他の図形の計量に生かすことに課題がある。
 B 道のりと時間の二つの量の関係で表される速さなど、二つの量の割合としてとらえられる数量について理解し、説明することに課題がある。

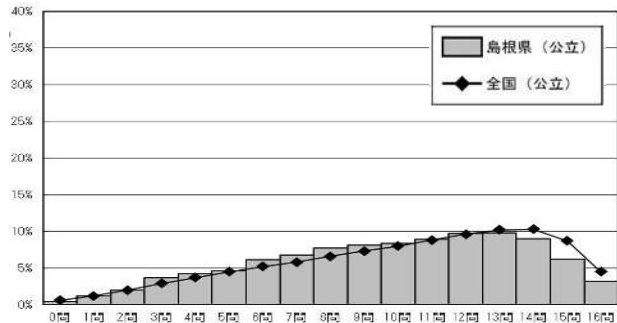
【本調査の状況】

- ・高正答率者が全国と比較して少ない。
 - ・県平均正答率は55%であり、全国平均を3ポイント下回っている。
 - ・領域別では、全ての領域において全国平均を下回っている。
- ①異分母の分数の加法の計算ができていない。
 ②伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができていない。…B
 ①基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述することに課題が見られる。…A
 ②分数の加法について、共通する単位分数を見出し、加数と被加数が共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述することに課題が見られる。

1 正答数分布グラフ [R7]



【参考】[R6]



2 分類・区分別集計結果 [R7]

学習指導要領 の領域	対象 設問数 ※	平均正答率（％）			
		島根	全国	差	
数と計算	8	59.9	62.3	-2.4	△
図形	4	53.4	56.2	-2.8	△
測定	2	52.5	54.8	-2.3	△
変化と関係	3	54.4	57.5	-3.1	△
データの活用	5	59.6	62.6	-3.0	△

【参考】[R6]

学習指導要領 の領域	対象 設問数 ※	平均正答率（％）			
		島根	全国	差	
数と計算	6	63.5	66.0	-2.5	△
図形	4	64.5	66.3	-1.8	—
測定					
変化と関係	3	46.0	51.7	-5.7	△
データの活用	4	60.2	61.8	-1.6	—

3 成果が見られる問題2問

〔問題番号〕 ③(4)「数と計算」 ①
 [島根県値 83.4%] [全国値 81.3%]

〔問題内容〕 $1/2 + 1/3$ を計算する

〔問題番号〕 ④(1)「変化と関係」 ②
 [島根県値 80.9%] [全国値 82.8%]

〔問題内容〕 新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を選ぶ

課題のある問題2問

〔問題番号〕 ②(4)「図形」 ①
 [島根県値 32.8%] [全国値 37.0%]

〔問題内容〕 五角形の面積を求めるために、五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く

〔問題番号〕 ③(2)「数と計算」 ②
 [島根県値 18.4%] [全国値 23.0%]

〔問題内容〕 $3/4 + 2/3$ について、共通する単位分数と $3/4$ と $2/3$ が共通する単位分数の幾つ分になるかを書く

※グラフの設問数（16問）と分類・区分別集計結果の対象設問数（22問/R7）が一致しないのは、1つの設問に複数の学習指導要領の領域が含まれるため。

【小学校 理科】

・：概要 ○：成果 ●：課題

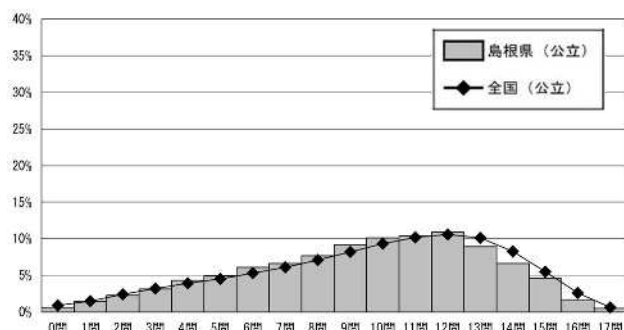
【これまでの課題】

- A 自然の事物・現象について出された気付きから、問題を見いだすことに課題がある。
 B 仮説と結果を照らし合わせたり、根拠となる結果を取り出したりして、考察することに課題がある。
 C 学習内容を身近な現象に当てはめて考え、知識を活用することに課題がある。

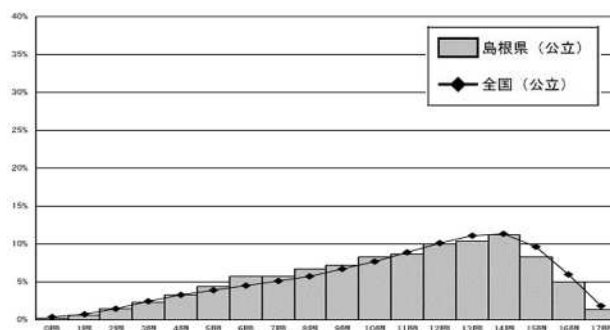
【本調査の状況】

- ・県平均正答率は56%であり、全国平均並みである。
 - ・「エネルギー」の領域は全国平均を下回っている。
- ①花のつくりが分かり、「受粉」を正しく捉えている。
 ②顕微鏡を用いた観察の技能が定着している。
 ①自然の事物・現象についての気付きや疑問をもとに調べたい問題を自分の言葉で表現することに課題がある。…A
 ②観察、実験したことを言葉で説明したり図に表現したりするなど、知識を関連付けて概念化することに課題がある。
 ③学習したことを他の学習や自然の事物・現象、日常の暮らしなどに関連付けて振り返ることに課題がある。…C

1 正答数分布グラフ [R7]



【参考】[R4]



2 分類・区分別集計結果 [R7]

学習指導要領 の領域	対象 設問数 ※	平均正答率（％）			
		島根	全国	差	
エネルギー	4	44.4	46.7	-2.3	△
粒子	6	49.7	51.4	-1.7	—
生命	4	51.3	52.0	-0.7	—
地球	6	65.4	66.7	-1.3	—

【参考】[R4]

学習指導要領 の領域	対象 設問数 ※	平均正答率（％）			
		島根	全国	差	
エネルギー	4	50.2	51.6	-1.4	—
粒子	5	58.7	60.4	-1.7	—
生命	5	73.6	75.0	-1.4	—
地球	5	62.2	64.6	-2.4	△

3 成果が見られる問題2問

【問題番号】 ③（1）「生命」 ①
 [島根県値 72.4%] [全国値 70.7%]
 【問題内容】ヘチマの花のおしべとめしべについて選び、受粉について書く

【問題番号】 ③（2）「生命」 ②
 [島根県値 47.6%] [全国値 45.6%]
 【問題内容】ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ

課題のある問題2問

【問題番号】 ②（4）「エネルギー」 ②
 [島根県値 50.5%] [全国値 55.1%]
 【問題内容】乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ

【問題番号】 ④（3）「粒子」 ③
 [島根県値 55.4%] [全国値 59.8%]
 【問題内容】海にある氷がとけることについて水が氷に変わる温度を根拠に予想しているものを選ぶ

※グラフの設問数（17問）と分類・区分別集計結果の対象設問数（20問/R7）が一致しないのは、1つの設間に複数の学習指導要領の領域が含まれるため。

【中学校 国語】

・：概要 ○：成果 ●：課題

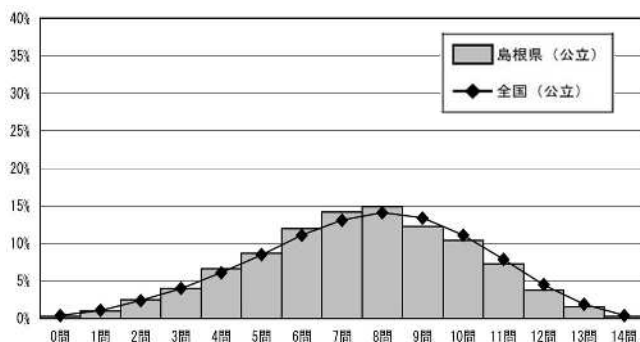
【これまでの課題】

- A 資料を用いて自分の考えを分かりやすく伝えることに課題がある。
B 表現の効果を踏まえた描写により自分の考えが効果的に伝わる文章になるよう工夫することに課題がある。

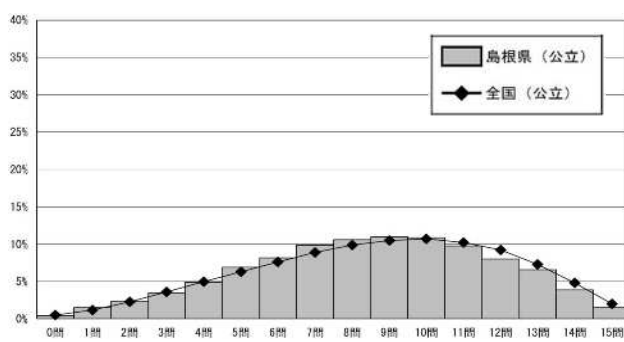
【本調査の状況】

- ・県平均正答率は53%であり、全国平均並みである。
 - ・事項、領域別は、全て全国平均並みである。
- ①事象や行為を表す語句は理解できている。
②表記を確かめて、文章を整えることが概ねできている。
- ①文脈に即して漢字を正しく使うことに課題がある。
● ②書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることに課題がある。

1 正答数分布グラフ〔R7〕



【参考】〔R6〕



2 分類・区分別集計結果〔R7〕

学習指導要領 の内容	対象 設問数	平均正答率 (%)		
		島根	全国	差
言葉の特徴や使い方に 関する事項	2	47.7	48.1	-0.4
情報の扱い方に関する 事項	0			
我が国の言語文化に関 する事項	0			
話すこと・聞くこと	4	51.8	53.2	-1.4
書くこと	5	52.1	52.8	-0.7
読むこと	3	60.8	62.3	-1.5

【参考】〔R6〕

学習指導要領 の内容	対象 設問数	平均正答率 (%)		
		島根	全国	差
言葉の特徴や使い方に 関する事項	3	57.2	59.2	-2.0
情報の扱い方に関する 事項	2	58.5	59.6	-1.1
我が国の言語文化に関 する事項	1	79.4	75.6	3.8
話すこと・聞くこと	3	56.2	58.8	-2.6
書くこと	2	63.4	65.3	-1.9
読むこと	4	46.2	47.9	-1.7

3 成果が見られる問題2問

〔問題番号〕 ③三「言葉の特徴や使い方に関する事項」① 〔島根県値 65.0%〕〔全国値 61.0%〕 〔問題内容〕「しきりと」の意味として適切なものを選択する
〔問題番号〕 ④一「書くこと」② 〔島根県値 59.0%〕〔全国値 57.3%〕 〔問題内容〕手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見付けて修正する

課題のある問題2問

〔問題番号〕 ①一「言葉の特徴や使い方に関する事項」① 〔島根県値 30.5%〕〔全国値 35.2%〕 〔問題内容〕変換した漢字として適切なものを選択する「かいしん」
〔問題番号〕 ①三「書くこと」② 〔島根県値 59.5%〕〔全国値 63.3%〕 〔問題内容〕ちらしの中の情報について、示す位置を変えた意図を説明したものとして適切なものを選択する

【中学校 数学】

・：概要 ○：成果 ●：課題

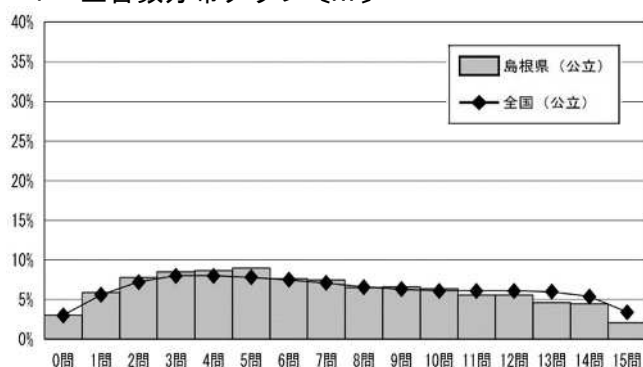
【これまでの課題】

- A 「数と式」の文字式を用いた説明に課題が見られた。
B 「図形」の筋道を立てて考え、証明することに課題が見られた。

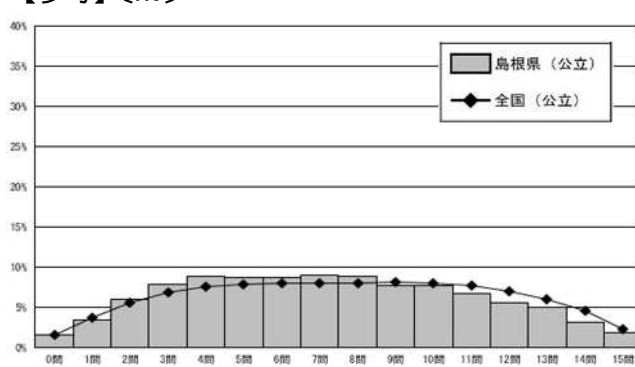
【本調査の状況】

- ・県平均正答率は46％であり、全国平均を2.3ポイント下回っている。高正答率者が少なく、低正答率者が多い。
 - ・「データの活用」は全国平均並みであり、昨年度から改善が見られる。
 - ・「数と式」、「図形」、「関数」は全国平均を下回っており、引き続き課題が見られる。
- ①「数と式」において、予想が成り立たない理由を反例をあげて説明することができている。
②「データの活用」において、樹形図を用いて確率を求めることができている。
- ❶「数と式」において、文字を用いて数量を表すことに課題が見られる。
❷「数と式」において、目的に応じて式を変形したり、理由を説明したりすることに課題が見られる。…A

1 正答数分布グラフ [R7]



【参考】[R6]



2 分類・区分別集計結果 [R7]

学習指導要領 の領域	対象 設問数	平均正答率（％）			
		島根	全国	差	
数 と 式	5	39.5	43.5	-4.0	△
図 形	4	44.3	46.5	-2.2	△
関 数	3	44.8	48.2	-3.4	△
データの活用	3	58.3	58.6	-0.3	－

【参考】[R6]

学習指導要領 の領域	対象 設問数	平均正答率（％）			
		島根	全国	差	
数 と 式	5	45.1	51.1	-6.0	△
図 形	3	37.7	40.3	-2.6	△
関 数	4	58.3	60.7	-2.4	△
データの活用	4	52.6	55.5	-2.9	△

3 成果が見られる問題2問

- [問題番号] ⑥(1)「数と式」☞①
[島根県値 64.4％] [全国値 62.8％]
[問題内容] 連続する二つの3の倍数の和が9の倍数になるとは限らないことの説明を完成するために、予想が成り立たない例をあげ、その和を求める
-
- [問題番号] ⑦(2)「データの活用」☞②
[島根県値 57.0％] [全国値 55.9％]
[問題内容] Aの手元のカードが「グー」、「チョキ」、「パー」、「パー」の4枚、Bの手元のカードが「グー」、「チョキ」の2枚のとき、AとBの勝ちやすさについての正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する

課題のある問題2問

- [問題番号] ②「数と式」☞❶
[島根県値 46.4％] [全国値 51.9％]
[問題内容] 果汁40%の飲み物a mLに含まれる果汁の量を、aを用いた式で表す
-
- [問題番号] ⑥(3)「数と式」☞❷
[島根県値 37.4％] [全国値 45.2％]
[問題内容] 連続する三つの3の倍数の和が、9の倍数になることの説明を完成する

【中学校 理科】

・：概要 ○：成果 ●：課題

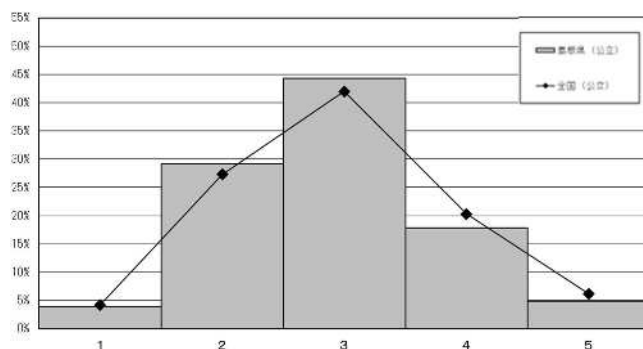
【これまでの課題】

- A 実験を改善して行う方法を記述することに課題がある。
B 知識が他の場面で活用できるように概念等を理解することに課題がある。

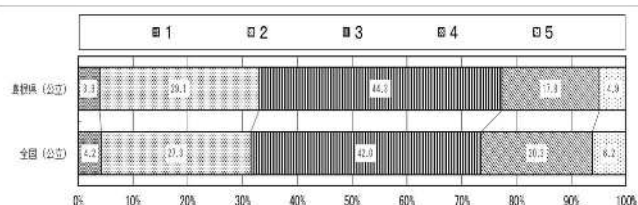
【本調査の状況】

- ・平均 IRT スコアは 494 である。
 - ・IRT バンド分布グラフは、全国と比較すると「1」の割合は低い。また、「2」、「3」の割合が高く、「4」、「5」の割合が低い。
 - ・「理科の勉強は得意だ」(54.9%)、「理科の勉強が好きだ」(65.5%)と回答している生徒の割合が全国よりも高い。
- ①探究の過程における振り返りを記述することができている。
- ②疑問を解決するための課題を記述することができている。
- ①実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明することに課題がある。
- ②既習の知識を、他の場面で活用できるよう概念等を理解することに課題がある。

1 IRT バンド分布グラフ [R7]



IRT バンド分布比較



2 成果と課題（公開問題から）

課題の把握

〔傾向〕☞成果②

- ・正答率が 48.4% である。課題を設定するという難易度が高い「5」の問題であるが、約半数の生徒が疑問を解決するための課題を記述できている。
- ・正答率が全国と比較して 2.2 ポイント高い。

〔特徴の見える問題〕

「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな?」という疑問を解決するための課題を記述する。

〔設問番号〕①(2) 〔島根県値 48.4%〕 〔全国値 46.2%〕

課題の探究

〔傾向〕☞課題①

- ・【解答類型 19】の生徒が 16.7% おり、実験は選択できているが、その実験を行ったときにオシロスコープの波形から何が分かればよいかを記述できていない（無解答）生徒が多い。このことから、予想される実験の結果を記述することに課題があると考えられる。

〔特徴の見える問題〕

考察をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する。

〔設問番号〕②(1) 〔島根県値 10.1%〕 〔全国値 14.0%〕

課題の解決

〔傾向〕☞成果①

- ・正答率が 80.8% であり、多くの生徒が探究の過程における振り返りを記述できている。
- ・正答率が全国と比較して 1.4 ポイント高い。

〔特徴の見える問題〕

水道水と精製水に関する 2 人の発表を見て、探究の過程におけるあなたの振り返りを記述する。

〔設問番号〕①(6) 〔島根県値 80.8%〕 〔全国値 79.4%〕

知識・技能

〔傾向〕☞課題②

- ・【解答類型 1】の選択肢を選んでいる生徒が 61.9% おり、動いている生物が呼吸を行うと考えている。このため、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いていないと考えられる。

〔特徴の見える問題〕

生物 1 から生物 4 までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する。

〔設問番号〕①(4) 〔島根県値 26.6%〕 〔全国値 29.7%〕

IV 児童生徒質問・学校質問調査の結果

〔児○〕：令和7年度 児童質問調査項目○番

〔学小○〕：令和7年度 学校質問（小学校）調査項目○番

〔生○〕：令和7年度 生徒質問調査項目○番

〔学中○〕：令和7年度 学校質問（中学校）調査項目○番

※紙面の都合上、一部質問調査項目は簡略化して記載しています。

1 第2期しまねの学力育成推進プランに関する質問調査項目

（1）基礎学力を育成する授業づくりの推進

- ①国語の勉強は好きだ〔児 45〕〔生 45〕
- ②算数・数学の勉強は好きだ〔児 53〕〔生 53〕
- ③学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている〔児 36〕〔生 36〕
- ④授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う〔児 37〕〔生 37〕

①について

- ・昨年度に比べ、児童生徒の肯定的な回答の割合は減少している
- ・児童の肯定的な回答の割合は全国値並みである

②について

- ・昨年度に比べ、児童生徒の肯定的な回答の割合は減少している
- ・生徒の肯定的な回答の割合は全国値並みである

③④について

- ・昨年度に比べ、児童生徒の肯定的な回答の割合が減少している

（2）学習習慣の基盤を育む授業づくりの推進

- ⑤児童〔生徒〕は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている〔学小 25〕〔学中 25〕
- ⑥授業では、児童〔生徒〕が自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っている〔学小 29〕〔学中 29〕
- ⑦授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた〔児 32〕〔生 32〕

⑤について

- ・全国値と開きはあるが、経年で見ると児童生徒の肯定的な回答の割合は8割程度で例年度並みである

⑥について

- ・全国値と開きはあるが、昨年度に比べ小中学校の肯定的な回答の割合は増加している

⑦について

- ・経年で見ると児童生徒の肯定的な回答の割合は例年度並みであるが、生徒については、小6調査時から4.7ポイント増加している

（3）幼小中高の学びをつなぐ保育・授業づくりの推進

- ⑧総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしている〔学小 36〕〔学中 36〕
- ⑨総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる〔児 40〕〔生 40〕

⑧⑨について

- ・ 肯定的な回答の割合が、学校質問調査で 9 割程度、児童生徒質問調査で 8 割程度と高い水準である

(4) ICT を効果的に活用した授業づくりの推進

- ⑩ 5 年生まで（1、2 年生のとき）に受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか〔児 28〕〔生 28〕
- ⑪ あなたの学校では、児童〔生徒〕一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器を、授業でどの程度活用しましたか〔学小 58〕〔学中 58〕

⑩⑪について

- ・ 「ほぼ毎日」と回答した児童生徒、学校の割合は、全国値と大きな開きがある
- ・ 島根県を経年で比較すると「ほぼ毎日」と回答した児童生徒の割合は増加している
- ・ 児童生徒と学校の回答結果に大きな開きがある

(5) 多様な子供の主体的な学びを支える授業づくりの推進

- ⑫ 授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた〔児 34〕〔生 34〕
- ⑬ 学習指導において、児童〔生徒〕一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫する
〔学小 30〕〔学中 30〕

⑫⑬について

- ・ 8 割以上の児童生徒、学校が肯定的に回答している

2 今年度肯定的回答の割合が高かった質問項目

肯定的回答が 9 割を越えている又は全国値を上回っている項目から抽出

- (1) 朝食を毎日食べている〔児 1〕〔生 1〕
- (2) 毎日、同じくらいの時刻に寝ている〔児 2〕〔生 2〕
- (3) 毎日、同じくらいに時刻に起きている〔児 3〕〔生 3〕
- (4) 友達関係に満足している〔児 14〕〔生 14〕
- (5) 人が困っているときは進んで助けている〔児 8〕〔生 8〕
- (6) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う〔児 9〕〔生 9〕
- (7) 人の役に立つ人間になりたいと思う〔児 11〕〔生 11〕
- (8) 学校では、児童（生徒）が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や生徒の学習改善に生かす〔学小 82〕〔学中 82〕

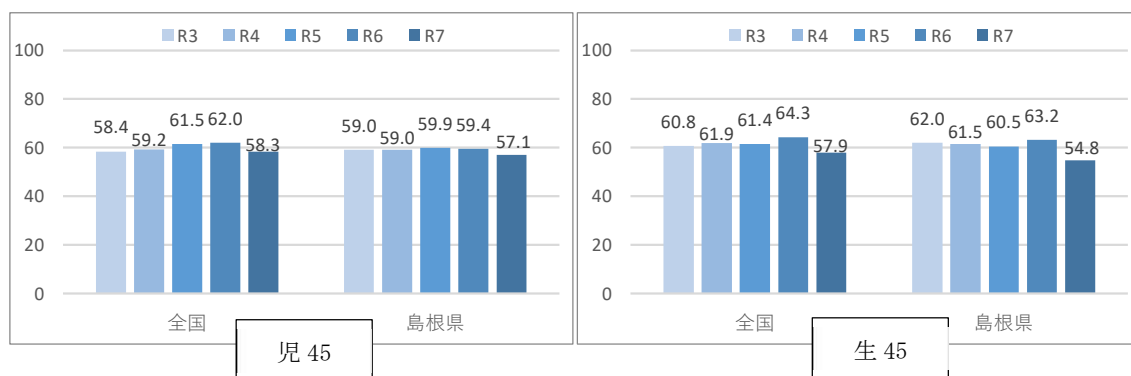
- ・ 基本的な生活習慣が身に付いていると考えられる (1)(2)(3)
- ・ 他者を大切にすることが育っていると考えられる (4)(5)(6)(7)
- ・ 学校は、授業と家庭学習を関連付けた指導を行うとともに、家庭での学習の方法について丁寧に指導している (8)

3 まとめ

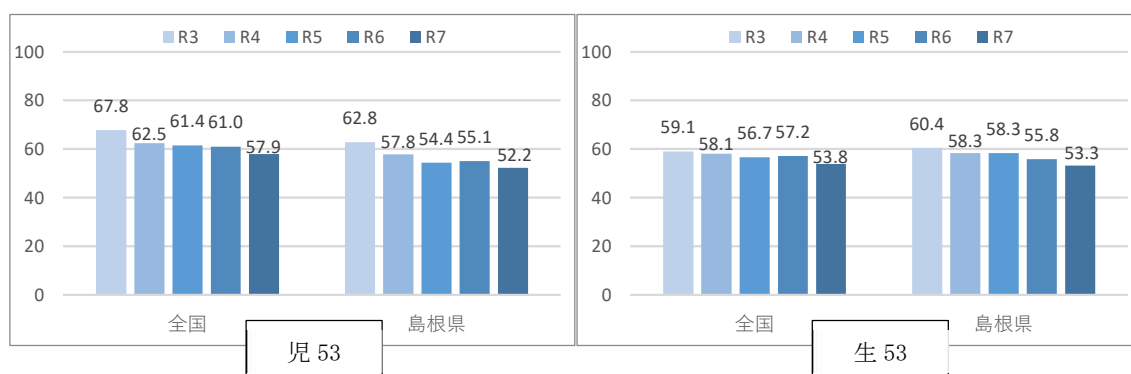
- ・児童生徒質問・学校質問調査の回答状況から、「探究の過程」を意識した学習について肯定的な回答の割合が高く、継続的な取組によって効果が現れていると考えられる。しかし、児童生徒が自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動については、改善が必要である。今後は、第2期しまねの学力育成推進プランの令和7年度重点アクション1で示す「大切にしたい学びの過程」を意識した授業づくりを行い、引き続き児童生徒の主体性を引き出す工夫を進める必要がある。
- ・学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると回答した児童生徒の割合はともに減少している。めあてと振り返りを大切にしたい授業の推進を行うとともに、引き続き、授業の学びと家庭学習をつなぐ工夫をするなど家庭学習の充実を図る必要がある。
- ・授業でのICT機器の活用は改善傾向にあるが、依然として全国との差は大きく、児童生徒が主体的に端末を活用することに課題が見られる。第2期しまねの学力育成推進プラン令和7年度重点アクション3に記載の【授業におけるICT活用例】より、「考えを共有したり比べたりする場面を設定する」、「考えをまとめ、発表・表現する場面を設定する」ことを中心に、児童生徒が一人一台端末を活用する場を増やすことが必要である。

【IVにあげた項目のグラフ】（青は児童生徒、緑は学校の回答）

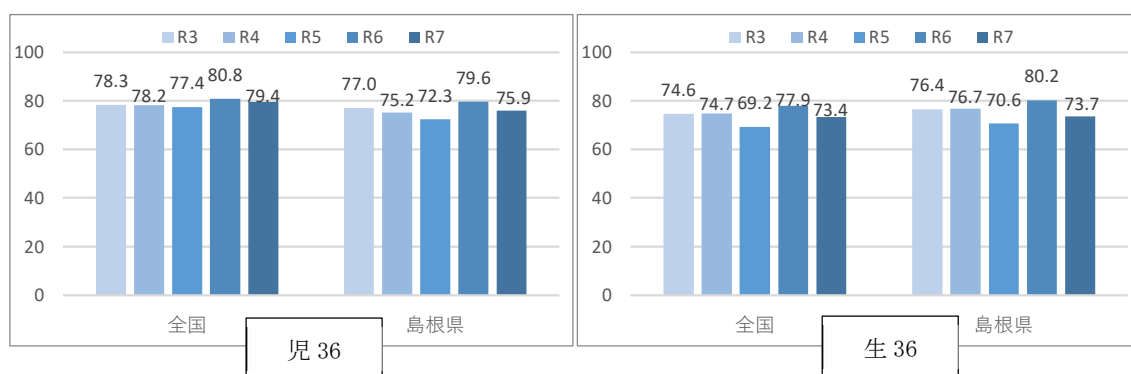
①国語の勉強は好きだ



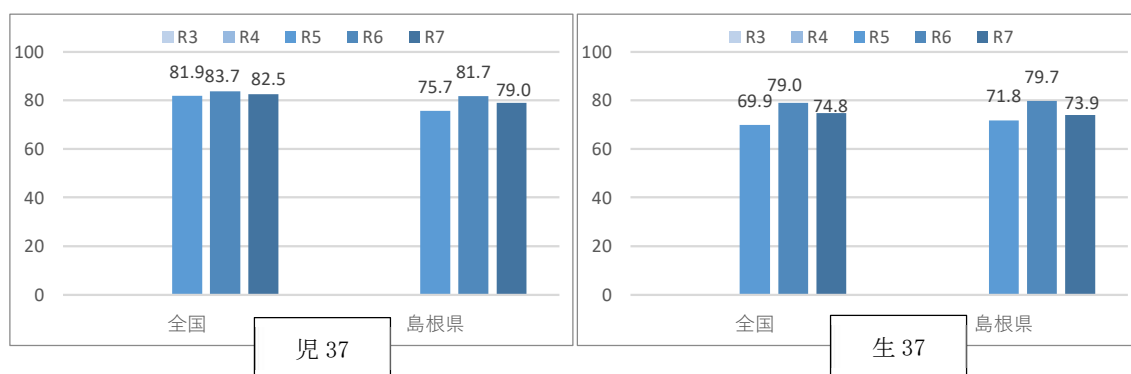
②算数の授業は好きだ



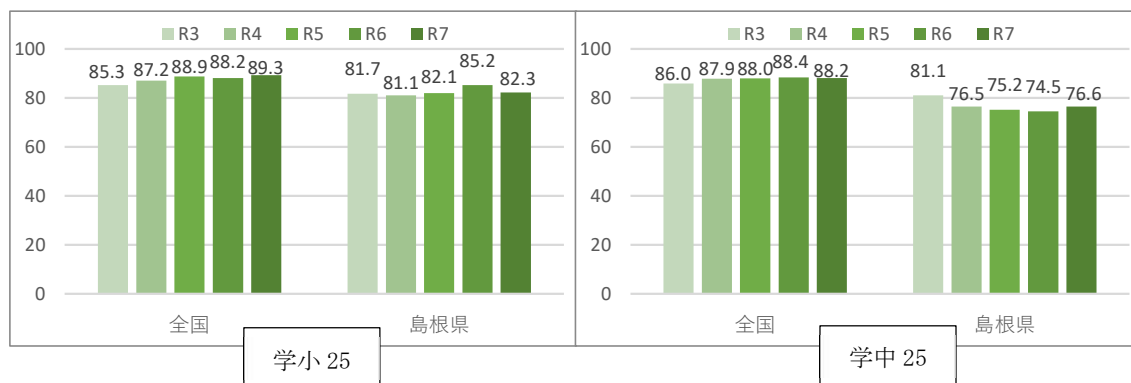
③学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる



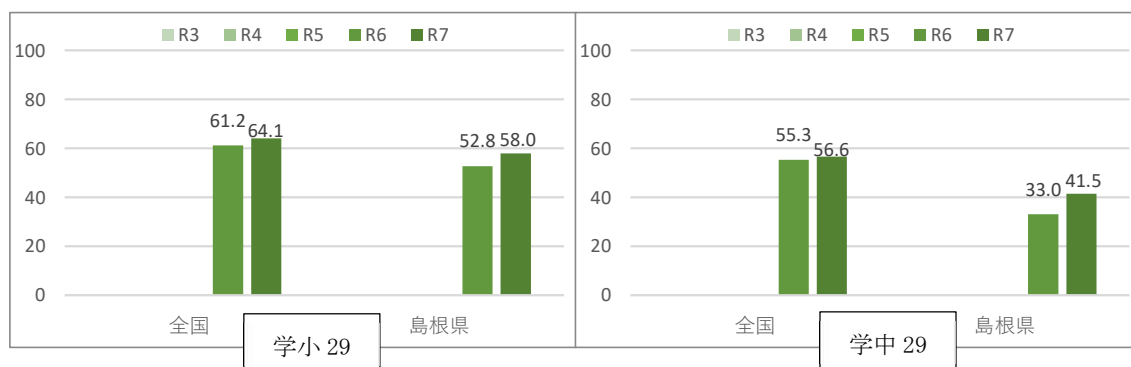
④授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う



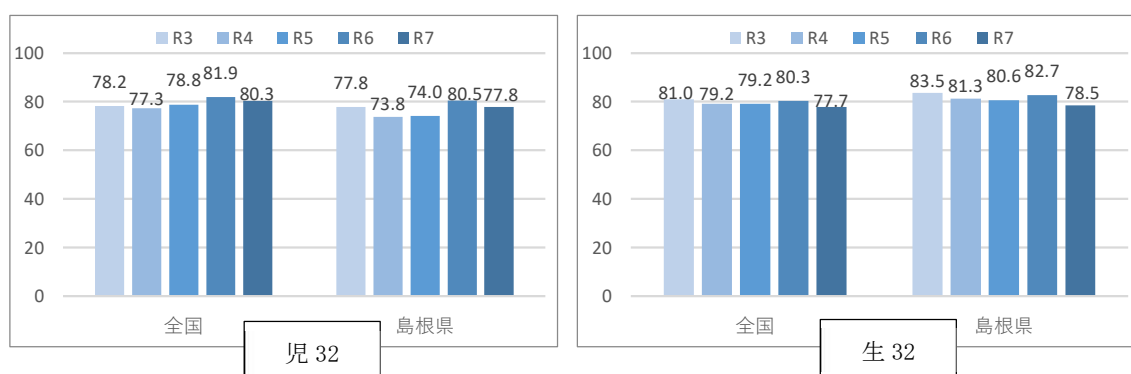
⑤児童〔生徒〕は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができる



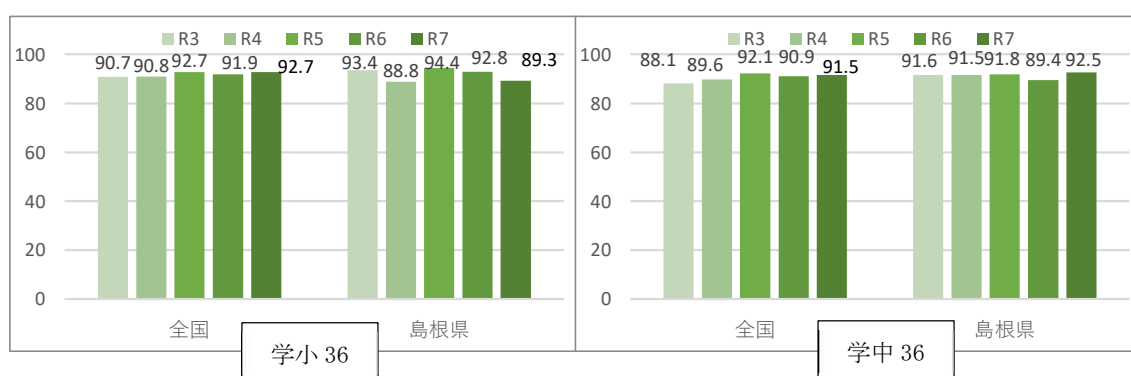
⑥授業では、児童〔生徒〕が自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っている



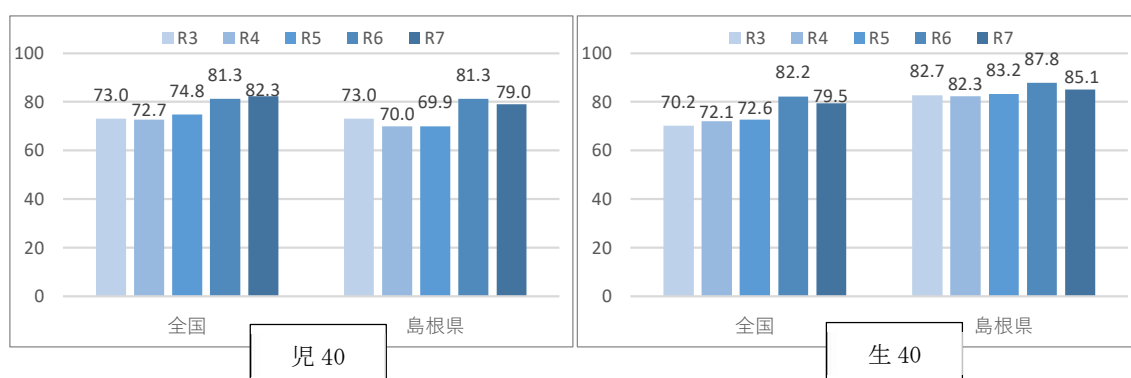
⑦授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた



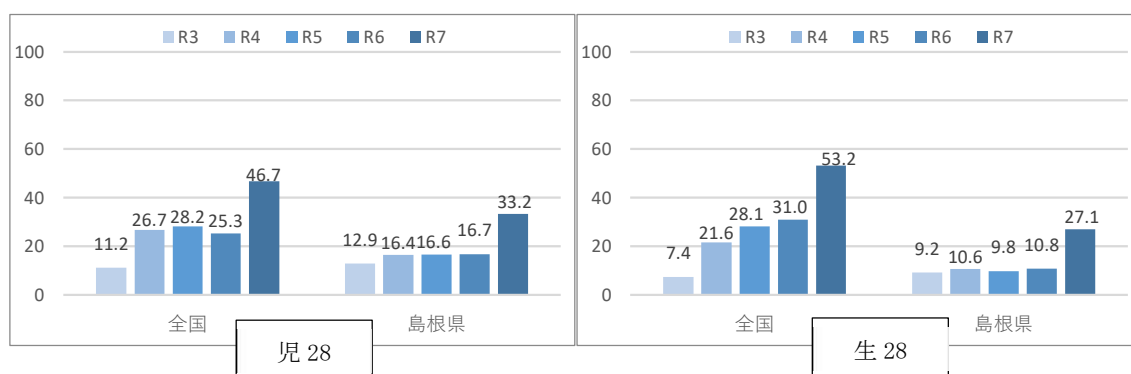
⑧総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしている



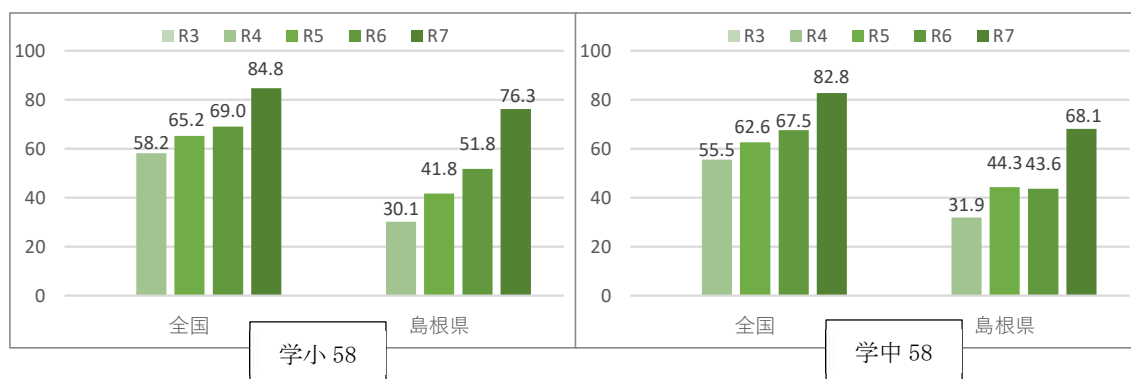
⑨総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる



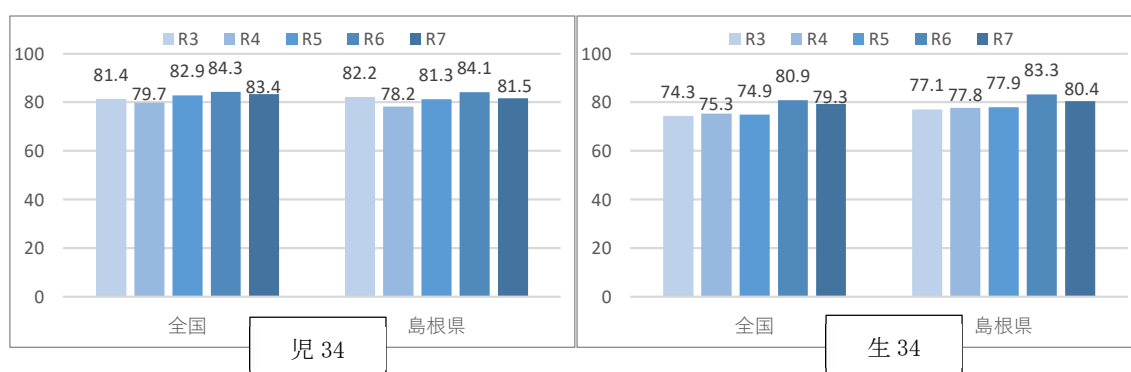
⑩5年生まで〔1，2年生のとき〕に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使いましたか ※「ほぼ毎日」と回答した割合



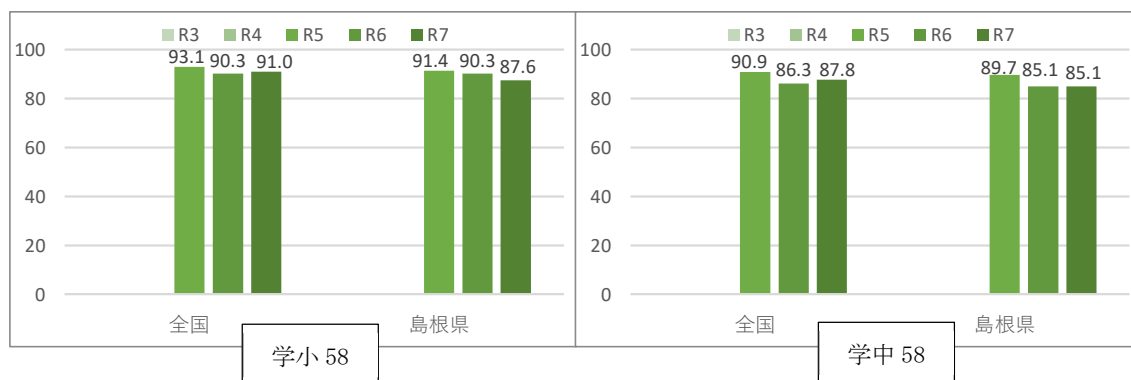
⑪あなたの学校では、児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか ※「ほぼ毎日」と回答した割合



⑫授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた



⑬学習指導において、児童〔生徒〕一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫する



V 今後の取組

- 1 県教育委員会と市町村教育委員会が連携・協力し、全国学力・学習状況調査の結果分析に基づき、第2期しまねの学力育成推進プランの令和7年度重点アクションを実行する。

アクション1 問題発見・解決能力を育む授業

- ・「学びの過程」として、①「問い」をもつ ②課題の設定 ③課題の追究 ④まとめ・表現 ⑤取組の振り返り・価値づけ、という流れの中で、学んだことを意味づけし、既得の知識や経験と、新たに得た知識を活用することで、「思考力、判断力、表現力等」を高める。また、児童生徒が自分で「学びの過程」を活用できるようにする。
- ・自分の考えを語尾までしっかりと話す（説明する）こと、書くことを繰り返し指導する。

アクション2 全国学力・学習状況調査を活用した授業改善

- ・全教員が全国学力・学習状況調査の問題を解き、ねらいや意図を丁寧に読み取ることで、学習指導要領が求める授業の具体像をイメージする。各設問が「学びの過程」のどの段階にあたるかを意識し、授業づくりの視点を得る。こうした分析に基づき、全教科・全学年で授業改善に向けた具体的な取組を進める。
- ・自校の調査結果の解答類型から児童生徒のつまずきの要因を把握し、授業改善策と評価方法を協議する。これらを踏まえて改善に向けた授業を実施し、具体的な評価問題等で改善状況を検証する。

アクション3 ICT活用指導力向上に係る研修での学びを生かした授業づくり

- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、「考えを共有したり比べたりする」「考えをまとめ、発表・表現する」「学習記録を活用して、自分のペースや学び方に合わせて学習を進める」など、一人一台端末の日常的かつ効果的な活用を促進する。
- ・Web ページ等の情報を利用する際は、内容の信頼性や妥当性を自ら判断できるよう指導を行うとともに、学校図書館の多様な資料を活用することで、必要な情報を主体的に収集・整理・比較して活用する力を育成する。

アクション4 子どもが自分に合った学び方を選択できる授業づくり

- ・学び方や理解の仕方、発達の状況には個人差があることを踏まえ、学習者の視点に立った授業づくりを行う。
- ・学習指導要領の各教科等解説「困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫」等を参考に授業づくりを行う。
- ・子どもが自ら教材・方法・学習進度等を選択できる学習環境をデザインする。

2 県教育委員会の取組

- ・学力育成会議等で市町村と学力育成の取組について協議するとともに、各市町村・学校の取組や成果等を共有する。
- ・「全国学力・学習状況調査」「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」「英語教育実施状況調査」等で学力育成に係る市町村の状況を把握し、支援を行う。
- ・学校全体で組織的に授業改善が進められるよう、調査結果の分析方法や今後の取組の設定等について、学校訪問を通じた支援を行う。また、小学校理数教科指導力向上プロジェクトにおいては、小学校算数に関し、全国学力・学習状況調査の課題を分析し、授業や家庭学習で活用可能な評価問題や授業プランを提供する。
- ・小学校低学年段階からの学習のつまずきを把握し、授業改善や学習支援に生かすための「学びの基盤に関する調査」(たつじんテスト)を実施し、学年・教科・単元等での指導・支援の事例を普及する。
- ・課題に基づく今後の授業づくりのポイントについて、説明動画、各教科等の指導の重点及び授業チェックリストを作成し、各学校に配信・配付するとともにそれらの活用を促進する。